

株式投資に抵抗がある皆様へ ～債券と株式を併せ持つことで、下落を限定的に～

世界の金融市場を見渡すと、いくつかの不透明要因が存在するのはよくあることです。足元では、欧米を中心とするインフレ高進やそれに伴う急速な金融引き締め、中国のゼロコロナ政策などが挙げられ、株価も大きく変動する状況が続いています。

このような環境下では、「株式は何かあったとき的大幅な下落が怖い。値動きに安定感がある債券の方がいい」と考え、株式への投資を躊躇する方も多いのではないのでしょうか。なるべく下落を避け、安定性を重視して投資するなら、債券だけに投資するのも良いかもしれません。しかし、中長期の投資においては、投資資産の一定程度を株式に配分することにより、資産全体としての下落を限定的にできる場合があります。

債券と株式を併せ持つことによるメリット

リーマンショックやコロナショックを含む期間である、2000年1月～2022年11月のデータをもとに振り返ると、世界債券に100%投資した場合と比べて、40%程度までなら、世界株式にも資産を振り分けた方が、分散効果が働き、期間中の最大下落率を抑えられたことが確認できます。たとえば世界株式への投資比率を30%、世界債券への投資比率を70%とした場合の最大下落率は▲23.3%と、世界債券の最大下落率▲27.1%に比べ、下落を抑えられています【左グラフ】。また、リターンに目を向けてみても、世界債券に比べて世界株式の方がリター

ンが高い傾向にあり、世界株式を併せ持つことで、より高いリターンの獲得につながりました【右グラフ】。つまり、配分次第ではあるものの、株式を併せ持つことは、債券のみに投資する場合と比べ、最大下落率を抑制しつつ、リスク・リターン比で見て効率的なリターンの獲得をめざすための有効な手段であると言えます。

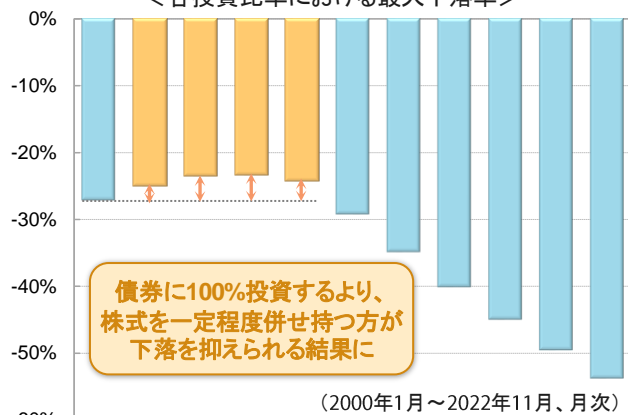
投資信託を通じた株式投資も選択肢の一つに

一般的に、株式の価格変動は債券よりも大きくなります。また、日々、新聞やテレビなどで好悪様々なニュースが取りざたされる中、その時々保有資産の値動きに一喜一憂してしまいがちです。しかし、未来のための長期的な資産形成を考えた場合、株式や債券などそれぞれの資産の価格よりも、運用資産全体としての値動きに目を向け、投資を行なう必要があると考えられます。今まで株式への投資を怖いと考えていた方々も、下落が怖いからこそ、あえて株式をポートフォリオに加えてみてははいかがでしょうか。

なお、株式への投資にあたっては、個別銘柄への直接投資のみならず、投資信託も手段の一つです。投資信託を通じて投資を行なうことで、幅広い銘柄への分散投資が可能となること、さらに、商品によっては専門家の知見を活用できることなどもあり、有力な投資手段の一つになり得ると考えられます。

債券のみに投資するよりも下落が限定的に

＜各投資比率における最大下落率＞



世界債券 100	株10:債90	株20:債80	株30:債70	株40:債60	株50:債50	株60:債40	株70:債30	株80:債20	株90:債10	世界株式 100
0.45	0.51	0.54	0.55	0.54	0.51	0.49	0.47	0.44	0.43	0.41

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※株:世界株式、債:世界債券

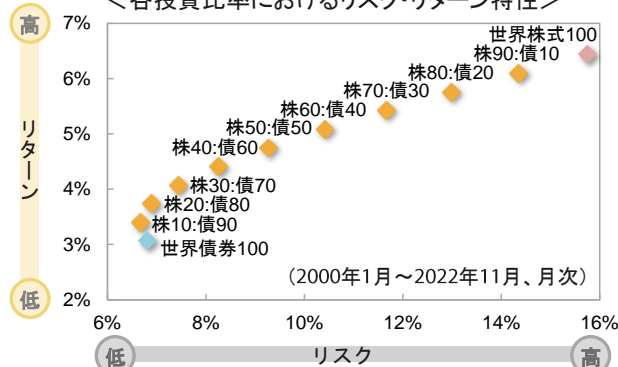
※世界株式はMSCIワールド指数(配当込、米ドルベース)、世界債券はFTSE世界国債インデックス(米ドルベース)、

世界株式と世界債券を各投資比率ごとに投資し、毎月リバランスしたものと算出

※リターンは月次リターンの平均を年率換算したもの、リスクは月次リターンの標準偏差を年率換算したもの

株式を併せ持つことでより高いリターンを獲得

＜各投資比率におけるリスク・リターン特性＞



＜各投資比率における運用効率(リターン÷リスク)＞

世界債券 100	株10:債90	株20:債80	株30:債70	株40:債60	株50:債50	株60:債40	株70:債30	株80:債20	株90:債10	世界株式 100
0.45	0.51	0.54	0.55	0.54	0.51	0.49	0.47	0.44	0.43	0.41

●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。